親子ふれあい事業

「家庭の教育力向上」を目指し、子どもたちの更なる健全育成と親子のふれあいを深めることを狙いとして、福岡市PTA協議会主催にて毎年実施している「親子ふれあい事業」を今年も開催しました。

今年度は、日本を代表するミュージカル劇団、劇団四季のファミリーミュージカル「ジョン万次郎の夢」に多数の応募の中から選ばれた親子ペア200組をご招待しました。

この演目には、日本人で初めてアメリカに渡ったといわれている中浜万次郎が、夢と希望で困難に立ち向かい未来を切り開いていく姿を通して、これから大きく羽ばたいていく子どもたちに届けたい大切なメッセージが込められています。

会場の中の子どもたちは、その広さと、これから始まる歴史への旅に目を輝かせながら開演を待っている様子でした。

そしていざ公演が始まると、その圧倒的な歌唱力と表現力にどんどん物語りの中に引き込まれ、まるで万次郎と一緒に海を渡り冒険しているかのような、そんな気持ちになっていた様子でした。

何度も拍手を繰り返し、最後のカーテンコールまで会場が一体となり大盛りあがりで幕を閉じました。

参加者からは「生のステージは迫力があった。」、「劇団員さんを間近に見たり歌声を聞いたりできて親子で夏休みの良い思い出になりました。」などの声が寄せられました。

子どもたちにとっても忘れられない経験になったのではないでしょうか?

私たち親にとっても、子どもの力を信じて夢を応援する。そんな勇気をもらえた大切な時間になりました。

撮影：阿部章仁

うとう

発行所
福岡市中央区舞鶴
1丁目4番13号
福岡市舞鶴庁舎6階

発行人
会 長 岡村耕二
広報委員会

福岡市PTA協議会
ホームページ
http://www.fukuokacity-pta.jp
福岡市PTA　検索

印刷㈱西日本新聞プロダクツ

目次

01 | 親子ふれあい事業
02 | 早寝早起き朝ごはん啓発講演会
会長合同研修会・担当副会長合同研修会
コラム
03 | 第71回日本PTA全国研究大会
九Ｐ佐賀大会
04 | 教育問題委員会・モニターアンケート
三行詩・編集後記

早寝早起き朝ごはん啓発講演会

福岡市教育委員会・福岡市ＰＴＡ協議会　共催
令和５年７/18～７/27　オンデマンド配信

「朝食の重要性～おいしく簡単にできる朝食メニュー～」

今回は、学校法人中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科教授の松隈美紀氏にご講演いただきました。

松隈　美紀氏のご紹介

松隈美紀氏は、学術博士、栄養士、調理師、フードスペシャリストとして活躍されており、高齢者の食に関する研究や食文化に関する研究等にも取り組まれています。

子どもたちの成長のために、朝食は欠かせないもの

食の重要性については、心地よい食事により心が癒やされ、供食により、人間関係の絆を確かめ合うという「食のアメニティ：心地よい食環境」を作り上げることが大切だといわれています。

特に学童期は、生涯の中でも最も発育が著しい時期で、体重あたりの必要量が大人より多く、抵抗力や免疫力などの予備力も未発達なため、1食ごとの栄養の役割はとても大きいと言えます。

残念ながら、農林水産省の「食育に関する意識調査」によると、朝食を欠食している子どもの割合は、2015年度の4.4％に対し、2021年度は5.1％へと少しずつ増えています。

今回の講演では、さまざまなデータをもとに、子どもたちの発達に対する朝食の重要性について、お話をしていただきました。

【朝食の必要性】

①朝食を食べることで1日の生活リズムをつくることができる。
②「いただきます」と声を出すことや箸を持つこと、食べることで体に刺激を与え、体を目覚めさせることができる。
③睡眠中のエネルギー消費による下がった体温を上げ、活動するエネルギーを与えることができる。
④朝食を抜くことによる肥満を防止することができる。

【朝ご飯は1日の活力源】

①寝ている間に低下した体温を上昇させる。
②炭水化物（ごはん、パン、めんなど）は体の中で分解されブドウ糖となり、脳のエネルギー源となる。
③エネルギーが不足するとイライラしたり、集中力がなくなります。
④朝ご飯を食べないと1回の食事量が増え、肥満や生活習慣病の発症につながります。

会長 合同研修会　10月13日（金）

講演『障がいのある子が、自立できる社会に。ある父親の挑戦』

～挑戦してわかったリーダーとして大切なこと～

講師　船越　哲朗　氏（西部ガス絆結（ばんゆう）株式会社　代表取締役社長）

船越氏は、とにかく「障がい者が働くことが当たり前の社会になること」に直接関わりたかった。現代社会を「障がいのあるなしに関わらず当たり前に働き暮らしていける社会に変えたい」と話された。私は講演を聞き、理想論ではないかと疑って話を聞いた。

障がいのある方々と真摯に向き合い、日々仕事をしている社員の皆さんの苦労など語られた。話の中で、おっしゃっていた「障がい」ではなく「苦手さ」と表現されていた言葉。非常に印象的ですんなり入ってきた。そして、人と接する上で大切なこと、「自分のものさしで決めつけず、相手のものさしをわかろうとする」こと。相手の立場にたって、何を考えて行動をしているのかを考え接すること。徹底的に相手の話を聞くこと。そうやってはじめて信頼関係ができる。そして信頼関係を構築して、相手にアドバイスしたいことを伝える。相手は、「自分のために言ってくれているんだ」と感じる。これが大切だと話されていた。

船越氏は、これを実行して取り組んでいる。話を聞いて、これは大人だけではなく、子どもたちにも通ずるものがあると思った。子どもと接する時もきちんと話を聞いて、どう考えてとった行動だったのかを子ども目線で考えてみる、そして徹底的に子どもの話を聞くこと。これが大事だと思った。PTA活動も、このような姿勢で取り組んでいけたら良いと感じた。

その後の情報交換会では、学校や区の垣根を越えた、とても有意義な交流ができた。

担当副会長 合同研修会　9月21日（木）

第1部　講演

「いいんだよ」は魔法の言葉

～寛容の精神が醸成される社会へ～

講師　齋藤　眞人　氏（学校法人立花学園立花高等学校校長）

不登校など子どもが抱きがちな心の問題について講演いただきました。「他人と違っていることも、同じであることも、どちらも同じように尊い」との観点から、問題の克服にこだわらない柔軟さや、寛容の心で「よかよか」と支える大人の役割の大切さを、立花高等学校の生徒とのエピソードを交えつつ説かれました。

第2部　グループディスカッション

テーマ「これからのPTAのあり方」

～この３年間でやめたこと・続けたこと～

コロナによる自粛期間のまま委員会活動を縮小したところも多く、サポーター制やボランティア制への切り替えが目立ちました。子どもや地域に影響が出ないような配慮も欠かせず、またボランティアの人数が読めずに協力してくれた人や役員の負担が大きくなるなど課題も残りました。

コラム

「繋がりの中で」

今ほど情報網が発達していなかった時代の教え子たちとは、どうしても繋がりが、希薄になってしまいがちです。卒業して何年かは年賀状等で近況を知るものの、それもそのうち途絶えてしまい、転勤や新たな教え子たちとの多忙な日々に流され、繋がりが切れてしまうこともよくあります。

しかし、「人はどこかで繋がっている」と感じる瞬間があります。

ひょんなことで知り合った初老の紳士と話し込んでいると、「少年ソフトの監督をしている。30年ほど前からずっと同じチームを見ている。」とのことでした。さらに話を聞くと、私が初任の頃勤務していた学校のグラウンドで練習していたチームでした。記憶をたどって「確かソフトをやっていたはず」の子の名前を何人かあげると、氏も記憶をたどるように「確かあいつはバッティングが・・」というソフトボール関係の話はもちろん、家族構成や親の仕事に至るまで事細かに話し、驚いたのを覚えています。それだけでなく、スマホで何人かに電話をかけ、繋がりをたどっていき、その教え子と連絡を取ってくれました。近くに住んでいることがわかり、30年ぶりの再会を果たすことができました。当時の面影がかすかに残る彼から、当時の教え子たちの活躍を聞き、うれしさがこみ上げてきたのを覚えています。

人はどこかで繋がっています。そしていつかはその繋がりをたどって出会い直す日がくるかもしれません。だからこそ、子どもたちや若い先生たちには、今の関係を大切にしてほしいと願っています。

福岡市立内野小学校
校長　鶴田　圭介

第71回 日本ＰＴＡ全国研究大会

変化の時代に向け、ＰＴＡ自身が学びの変革を！

～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで!!～広島から全国へ

令和５年８月25日（金）分科会（広島県内８会場）　８月26日（土）全体会（広島県立総合体育館）

「日本の未来が子どもたちの笑顔に満ちた安心と信頼の社会であることを願い」第71回日本ＰＴＡ全国研究大会が広島市を中心に県内７会場（８分科会）で行われました。

１日目【第３分科会　地域連携】に、参加しました。研究課題は「学校教育と地域の連携をどう進めていくか」～子どもの成長を地域と共に～でした。

基調講演では、広島修道大学教授　山川肖美氏が「地域に学びの場があること・地域で学びの場を創ることの意義をみなさんと一緒に考えてみたいと思います。」と問題提起をされて、シビック・エンゲージメント（「自分の暮らすコミュニティでの生活に変化をもたらすために働きかけること、そのために知識、技術、価値および動機を発達させること」を意味する）による「持続可能なまちの構築」公民館と連携した、大学生の視点を生かしたシビックプライド教育（「地域をより良い場所にするために、自分自身が関わっている」という、当事者意識や自負心）について報告されました。その中で、地域と連携・協働して学校教育を実現していくことは、そこに関わるすべての人たちの幸せや暮らしの向上・持続可能な社会につながるということが、実践的な取り組みの検証結果を丁寧に説明されたので、私にも分かりやすく伝わってきました。

その後、山川氏がコーディネーターとして、３名のパネリストの方々の取り組みについて論議を深めました。それぞれの立場や地域の特性に合わせた取り組みは、子どもの人口が減少する中で、「持続可能なまち」「地域と連携・協働して学校教育を実現」していくうえでとても参考となるものでした。

２日目【全体記念講演】は、人口知能研究者、感性アナリスト等々の肩書や「妻のトリセツ」「家族のトリセツ」などの著書がある黒川伊保子氏の『心のトリセツ～「逃げ癖」を「意欲」に変える脳科学者～』という演題で楽しい話を聞かせていただきました。

この講演は、困難にあってもあきらめず、自らを変えていこうとする意欲となることを、科学的根拠に基づいた説明で分かりやすくまた楽しく聞くことができました。この講演は、全国大会のスローガンともつながる話で、「変化の時代に向け、ＰＴＡ自身が学びの変革を！～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで!!～広島から全国に」の趣旨が心に伝わる内容で、多くのことを学べた貴重な時間となりました。

第68回 日本PTA九州ブロック研究大会

令和５年10月28日（土）　１日目（分科会）　会場／佐賀県内６会場
10月29日（日）　２日目（全体会）　会場／ＳＡＧＡアリーナ

【大会スローガン】

SAGAそう　子どもの未来　見直そう　PTAの力

【研究主題】

家庭や地域の教育力を高め。すべての人が子どもの健やかな成長に関わりをもつ社会を目指して

第１分科会「組織・運営」

福岡市からは、福岡市立若久特別支援学校ＰＴＡ会長　立木春香氏が、提言者として取組を発表されました。その一部を紹介いたします。

地域社会（故郷）との架け橋となり共に生きるために

ＰＴＡ活動を通じて、保護者の知識や情報量を増やし、子ども達に経験をしてもらうことで、子ども達の可能性を最大限に伸ばすことができると考えています。

そのためには、本当に必要なこと・求められていることを考え、さらに活動への負担を軽減しつつ、実施していくことを一番大切にしています。

そして、様々な困難を抱えている障がいのある子ども達が、地域の一員として生きていく上で、地域の皆様の力を必要とすることがあるかもしれません。その時に地域の皆様と子ども達が困らないよう、ＰＴＡがしっかりとつながりを持ち、架け橋になることが不可欠であり、そうなれるように役目を努めていきます。

全体会（記念講演）

「社会のためになるＡボタン」
～タニタの姿勢と考え方～

「はかる」を通して世界の人々の健康づくりに貢献していく健康総合企業
株式会社タニタ 代表取締役社長
谷田　千里 氏

谷田氏の講演の中心は、「働き方改革」でした。

会社が逆境にあるときこそ優秀な人材が必要になる。その為、優秀な彼ら彼女らと一緒に働き続けられる仕組みができないかと考え実践した。また、社員が精神的に健康な状態で働き続けるためには、やりがいが欠かせない。個人事業主という立場になれば、仕事は「やらされる」ものから「主体的に取り組む」ものに変わっていく。自分なりに考えた末、こうした形をとることに決めたでした。ＰＴＡの活動の見直しにもつながる話でした。

それを、佐賀大会「ＳＡＧＡそう　子どもの未来　見直そう　ＰＴＡの力」のスローガンに子どもを「社員」ＰＴＡを「会社」と置き換えて聞いていると、従来の仕組みに捉われず、未来のために見直す勇気や信念が伝わってきました。

エンディングスペシャルＬＩＶＥ

佐賀出身のはなわ氏

保護者と子の関係を歌った「ママには内緒」「お義父さん」等は、心に強く響くＬＩＶＥでした。

令和5年度
「楽しい子育て全国キャンペーン」
～家族で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～

三行詩入賞について

本年度の三行詩募集には、公益社団法人日本PTA全国協議会主催の三行詩コンクールへ福岡市内より2,166作品（小学校1,614作品、中学校478作品、一般74作品）のご応募をいただきました。ご応募いただいた作品の中から、小学校５作品、中学校５作品、一般５作品の合計15作品を公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会に推薦いたしました。惜しくも全国賞入賞とはなりませんでしたが、下記の作品を「福岡市PTA協議会推薦賞」として表彰させていただきます。受賞された皆さまおめでとうございます。

三行詩　福岡市PTA協議会推薦賞　受賞作品

【小学生の部】

●だいすきだよ　ねるまえの　めっせーじ　（野多目小学校１年）

●わたしがなくと　お姉ちゃんがなぐさめてくれる
お母さんがわらわせてくれる　お父さんがだきしめてくれる
（小田部小学校３年）

●スマホより　家族と過ごす　楽しい時間　（賀茂小学校５年）

●大丈夫？　その一言で　救われる　（愛宕浜小学校６年）

●「がんばって」というよりも　「がんばったね」という方が
前よりもっとがんばれる　（馬出小学校６年）

【中学生の部】

●ちょっと　STOP　反抗期でも　言葉は刃物　（博多中学校３年）

●つらいことは家族でわり算　楽しいことは家族でかけ算
（板付中学校１年）

●その一言で　相手が笑うか　きずつくか　（次郎丸中学校１年）

●「早く大きくなーれ」と　僕を見下ろしながら言っていたお母さん
今では僕を嬉しそうに見上げている　（原中学校２年）

●学年写真　はじっこにいるけど　見つけてくれる母の愛情
（内浜中学校３年）

【一般の部】

●いつも心に留めててね
あなたも　あの子も　かぞくの　たからもの　（老司小学校）

●まずは自分を大切に　つぎに家族　それが家庭円満のひけつ
（姪浜小学校）

●行ってきます　見えなくなるまで立ちつくす
自分の姿に母思い出す　（元岡中学校）

●「だっこして！」と相変わらずのだっこちゃん
いつまでもできないなと思い　「はい！よろこんで!!」
（元岡中学校）

●表情は見えても　心は見えない　会話なくして　語り合えない
寄り添う心　持ち続けたい　（和白丘中学校）

第78回指定都市PTA情報交換会 相模原市大会

参加レポート

【概要】

第78回指定都市PTA情報交換会相模原市大会が2023（令和5）年9月14日（木）から15日（金）で開催され、福岡市PTA協議会からは、岡村会長含む3名が参加しました。

今大会は、「すべての子どもたちを守りたい ～生まれてきてくれてありがとう、子どもに伝えたいあなたのために～」というテーマに基づき、全5部（①全体会議、②分科会、③レセプション、④分科会報告、⑤記念講演）で構成され、各都市16協議会から約130名が参加しました。

全体会議終了後、PTAの基幹活動項目である「組織・運営、地域連携、成人教育活動、広報・情報活動」の4分科会に分かれて、各主題に沿って学校教育やPTAに関連した取組事例の共有や意見交換がた行われました。また、分科会では、グループワークを用いてデスカッションが催され、表面的には見えてきにくい活動意図・動機や価値観（組織・個人）を知る機会となりました。

レセプションでは、前段の分科会の枠を超えて交流が成され、地域特性による相違点や各都市で共通する様々な問題の認識や解決に向けての意見交換など、有益な情報共有を行うことができました。

二日目は、分科会報告での全体共有後に、明星大学教育学部教育学科教授 星山麻木様による記念講演があり、他者理解や多様性の必然性について、研究内容や教育現場での具体的な経験を踏まえての問題定義、理想とする学校教育や望まれる環境にいて提示があり、非常に心動かされる話でした。

【全体の感想】

都市圏である指定都市PTAが一堂に会して相互ネットワークの構築や情報交換の機会を持つことにより、改めて大規模都市ならではのメリットやデメリットをクローズアップすることができました。良いものはもっと良く、足りない部分は問題点を洗い出し、解決に向けた考え方や具体的な対処方法や取組み事例などを意図的に共有できることは、本市PTA協議会の運営や活動の最適化など、発展へと繋がるインセンティブを得る機会であると感じました。

2023年10月28日
文責：福岡市PTA協議会　副会長　榊　淳英

令和6年度教育予算要望

本年度も皆さんのアンケートをもとにこれからの子どもたちがより充実した環境・教育現場での体制を向上していただくために福岡市PTA協議会から教育委員会へ要望書を提出させていただきました。

例年上がっている問題に対しては更なる早急な処置をお願いしており新しく出てきている問題に対してはしっかりと理解していただける資料をもとに嘆願しております。

要望/01　児童に関することについて

◆教員以外の支援員（さまざまな分野のサポーター）の増員

令和5年度には、新たに学習指導員を配置し、一人一人に寄り添った学習を推進するための予算を新たに組んでおられますが、不登校児童をサポートするための人材や教員をサポートする人材の増員を求めます。

要望/02　学校設備に関することについて

◆トイレの洋式化　◆特別教室への空調導入の早期改善　◆網戸の設置を要望

要望/03　部活動に関することについて

◆部活動指導員の増員と活動費の予算化を要望

要望/04　その他（学校環境・働き方）

◆さまざまな専門的な知識や経験を持つ人材の登用

担任の先生をサポートする支援員を委託するための予算化を要望いたします。

編集後記

広報紙、『ふよう』を読んでいただきありがとうございます。

編集作業を通じて、様々な部署の方々と協力しながら、情報を収集し、広報紙の内容を作り上げることができました。また、広報紙を通じて、保護者に対して情報を発信する重要性を再確認しました。

特に重要だと感じたことは、広報としての役割です。

情報の発信だけでなく、保護者との関係構築にもあります。保護者のニーズや要望を把握し、広報紙を通じたコミュニケーションを深めることが重要です。例えば、保護者アンケートを実施し、保護者からの意見や質問に対応することで、保護者との関係を築くことができます。

最後に、広報紙はPTAの活動内容や価値観を伝える重要なツールです。保護者に対して、魅力ある情報を提供することで、PTAに対して興味や存在意義を伝えることができます。

そのためには、保護者の視点に立って、適切な内容を伝えることが求められます。

今後もさらに精度の高い広報活動を行い、保護者のニーズに応えていけるよう努めてまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

広報委員長　坂本孔明

モニターアンケート　142号

●本当に必要なイベントや事業や実現可能な事を精査してより良いあり方を発信、共有できればいいい。

●PTAに加入していて良かったなと思える記事を今後も掲載してほしい。

●いろんな取り組みやイベントをもっと載せてほしい。

●時代の流れと共に、「ふようのデジタル配布」についても考えてほしい、印刷のコスト、効率化を考えると断然デジタルが良いと思う。

福岡市ＰＴＡ協議会 全市一斉ＰＴＡ研修講座 動画配信

昨年度まで、単位PTAの役員向けに開催しておりました全市一斉PTA研修講座を、今年度は福岡市PTA協議会のYouTubeチャンネルにて配信しております。福岡市PTA協議会の活動紹介や人権についての講座、過去の研修会での講演なども視聴することができます。詳しくは、QRコードを読み取って是非視聴してください。

福岡市PTA協議会
YouTubeチャンネル